

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4472300484		
法人名	有限会社湯布商事		
事業所名	グループホーム花の里		
所在地	大分県由布市庄内町西361番地		
自己評価作成日	平成23年1月25日	評価結果市町村受理日	平成23年3月29日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	平成23年2月23日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

本人の意思、ご家族の希望があれば、かかりつけ医と相談の上終末ケアに取り組んでいる
 認知症状が進行しても本人にとって環境を変えず、ご家族も希望すれば出来る限りの暮らしを続けていけるよう努力する
 スタッフの働きやすい職場、協力的、和を重視し、職員の交替がないよう努力している

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・毎日、足浴を行い足の指1本ずつにマッサージクリームをつけ丁寧に手入れをしている。利用者の足裏はスベスベであり「フットケア」が行き届いている。また、膝関節や股関節のマッサージ、機能訓練を行い、機能の低下を防いでいる。
 ・その人らしい最後が送れるように「終末期ケア」を行っている。かかりつけ医や家族・職員との話し合いを行ない、今までも数名の利用者を看取っている。
 ・職員の異動が少なく、利用者との馴染みの関係が生まれ、事業所全体に和やかさがある。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65		1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	安心・安全・交流を理念とし、グループホームが地域密着型であるという性質を理解し、実践している。	理念は「安心・安全・地域との交流」としている。地域密着型であるということを意識し、祭りなどを通じて地域との交流を深めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日々の挨拶から、日常的にホームに出入りすることが多くなってきている。	地域の方とのバス旅行や行事への参加、また野菜のおすそ分けなど、地域の方と日常的に交流している。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	講演会や祭り等のイベント時には声かけし、交流を深める中で理解を求めている。また1年1回取り組みを知ってもらう広報誌を配布している。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の方の意見や、市の職員の意見等を参考にしながら、運営に役立てている。	運営推進会議を意見交換の場とし、全員が積極的に意見を出し合い、地域・市・地域包括支援センターのアドバイスを参考にしながらサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	主に運営推進会議の際に実情や取り組みを伝え、理解を求めたり、協力をお願いしている。	運営推進会議の際、市の担当者に実情や取り組みなどの情報を伝え、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束をするという行為すら意識にない。身体拘束や権利擁護の勉強会をしている。拘束する事が利用者においてもスタッフにおいても、必ずしも良い結果をもたらすことがないということを認識している。	身体拘束をしないケアについて、安全性とリスクの勉強会や「身体拘束の研修会」に参加して、職員は正しく理解し、安全に配慮しながら取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者がどうして家族と離れ、ホームで暮らさなければならなくなったのかを理解することで、スタッフのケアは大きく変わってきた。こんなことも虐待に値するという事も含め勉強会をしている。		

事業者名: グループホーム花の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年1回の勉強会の計画の中に取り入れ知識を深めている。 また必要なケースがあれば専門の方をお願いしたり、一緒に考えていこうと思っている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明を行っていると思っている。入居時に利用料等事務的なこと、また個人的に起こりうること、今後起こりうることを含め、最初が肝心と思っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居生活が長くなっている方はお互いに話しやすい関係になっていると思っているが、玄関に気づきノートを置いているが記入はない。普段から出入りしていない家族や、利用者の状態が変わってくると(病気の進行)また違うことを思い知った。	利用者の思いは表情や言葉などから把握し、家族の意見や要望は面会に来た際、話をしている。また気づきノートの設置やアンケートなどを実施し、ケアに反映させている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者や管理者と職員はコミュニケーションが取りやすい環境にあり、お互いの意見を出し合えていると思っている。	職員の意見や改善に向けた提案はシートに記入し、発表の場を設け、ケアに反映できるようにしている。代表者と職員は、コミュニケーションをとり、意見を言いやすい関係を築いている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	スタッフは家庭を持って、大変なこの現場で働いていることを理解し、勤務に支障のない限りストレスを最小限にしたいと思っている。仕事に対して意欲、向上のあるスタッフには勤務時間の調整をしており、希望者が多くなることを期待している。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修、勉強会を進めており、特に内部研修では月1回実施して多くの方が参加しやすいように夕方1時間程度としている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宅老所・グループホーム大分県連絡会があり研修や親睦を図っている。 また由布市内の同業者の交流を深めており、意見交換や施設見学を行って、質の向上に力を入れている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居希望の話があった時には必ず面談をし、心身の状態やその人が抱えている問題等把握し、出来るだけ受け入れが出来るようスタッフ間で協議している。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が困っていることを理解し、事業所として出来ることや出来ないこと等話し合い、グループホーム以外のサービスの紹介もして良い関係作りをしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い、また状況等を確認し、必要としているサービスを提供できるよう努力する。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その人をよく理解した上で、ホームでの生活が介護される側だけにおかず、共に生活しているという意識で教えたり、教わったりの環境作りをしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の事も良く知ることで、来訪時の会話も一緒に溶け込みやすく、ご家族の利用者さんを思う気持ちに寄り添っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容室に行ったり、近くの人が会いに来たりしている。 地域の美容院がホームに来て、散髪してくれている。	馴染みの美容院や俳句会に行ったり、地域の方と旅行へ行ったり、またホームに近所の方や友人が遊びに来るなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆で楽しく話したり、個別や数人と話したりして、楽しいと思える時間、充実していると思ってもらえる時間をとっているし、職員も一緒に食事したり、お茶を飲んだりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	病気等で一旦退居されても相談に乗ったり、他事業所に行っても情報交換をしている。また祭りやその他の行事にも呼びかけをしている。		
、その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思いや希望は把握しているが、思い通りにならないことがほとんどである。しかし、その気持ちを理解した上で日々のかかわりをしているし、またご家族が来た時は思いを伝えるようにしている。	認知症の人のためのアセスメントシートはセンター方式を取り入れ、施設に適した方法に作り変え、活用している。一人ひとりの思いや希望は、言葉や表情から把握し、また困難な方は家族から聞き取り、情報を職員間で共有している。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの暮らしを知ることで、その人とのかかわりも深くなり、生活する上で重要なことだと理解している。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身の状態を把握している。一人ひとりに合った生活を支援している。出来ることに着眼し、少しでも身体を使ったり、五感で感じてもらえるような支援をしている。そのことは記録で残すようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人からの視点で考え、より良い暮らし、より良い状態になるようにスタッフ全員で話し合い、サービスを共存している。	日頃からその人らしさの維持のため、担当者が意見を出し、本人・家族などの思いを反映し、利用者本位のケアプラン作りに心がけている。また、職員間で話し合い、現状に即した計画を作成している。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ファイルに日々の暮らしの状況、心身の状況、エピソード等を記入している。それを基に介護計画の見直しや評価をしている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりの状況に沿って、必要な支援があれば柔軟に対応している。終末期の家族の泊まり、食事の用意等配慮している。通院に対してもホーム側で対応している。		

事業者名: グループホーム花の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に包括の職員も出席しており、いろいろな情報交換や協力体制ができている。消防署員立ち会いの防災訓練や救命救急講習も実施している。小学校の閉校に伴い、小学生との交流がなくなったが、保育園との交流はしている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人の状態や家族の希望も取り入れ、良い関係作りができている。訪問診療にも来てもらえ大変助かっている。歯科の訪問診療も大変良い関係となっている。	かかりつけ医などへの受診や、医師の訪問診療など、利用者や家族の希望を大切に医療が受けられる。特に、訪問歯科医に「口腔内ケア」の講義を依頼して、職員や利用者も受講し、効果を上げている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職と看護職の協力関係は良く、小さなことでも見逃さず看護職に報告するようになっている。緊急時の連絡体制もできている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	治療が終われば出来るだけ早く退院でき、元の環境に戻ることを第一に考え、病院側と話し合う機会を設けている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化に伴い家族に説明し、納得できたら同意書をもらうようにしている。介護、看護、医師、家族と協力しながら、本人にとって最も良い方法で最期を迎えられるように考えて取り組んでいる。	重度化や終末期のケアについては、家族とじっくり話し合い、本人にとって最も良いと思われる方法を考えて取り組んでいる。また、管理者が看護師であり、数名の看取りケアが行なわれている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署員による救命救急法を定期的に行つて身につけるようにしている。怪我や骨折をさせない取り組み、また窒息においても同様、未然に防ぐことに力を入れて学習会をしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	マニュアルを作成し、年2回消防署の協力を得て、利用者とともに訓練を行っている。消防団や地域の協力もあり、大変ありがたいと思っている。消火器の場所の確認、消火器の使い方も訓練に入れている。	年に2回、防災訓練を消防署・地域消防団・地域の方々の協力を得て行っている。地元消防団による夜廻りもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	さり気ない言葉がけをすることに、今力を入れている。特にトイレ時等は気をつけようとスタッフ間で話している。 また利用者が自己決定しやすい言葉がけを行っている。	一人ひとりのプライバシーを大切に接し方で、オムツなど見えないようカーテンで遮るなど工夫している。声かけもさりげなく、やさしいトーンで対応している。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	一人ひとりを良く知り、少しでも自分で意思表示できるように考えている。 難聴の利用者には筆談で、目の不自由な利用者にはテレビの内容を伝えて一緒に楽しめるようにしている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れはあるが、その日の天気や利用者の状態、状況を見ては外で食事したりお茶したり、また外出したりと家庭的であるということを忘れてはならないと思っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人に似合う洋服を用意したり、白髪染めをしたり、整髪には気をつけている。本人の行きつけの美容院に行く方もいる。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る方にはいろいろしてもらっている。 座っても出来る下ごしらえ等が多い。 食事の用意や片付け等も一緒にしている。	利用者と職員と一緒に、食事の準備や片付けを行い、家庭的な雰囲気の中で明るく楽しい時間を過ごしている。介助が必要な利用者には、食事の形態や個々のペースを大切にしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養面に気をつけると共に、好み追うメニュー、バランス等に配慮している。残飯は少ない。 水分量のチェックも行い、1日の必要量の目安としている。代替食品もOK。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っている。出来る方は声かけ、見守り、歯科医にもケアについて助言してもらっている。		

事業者名: グループホーム花の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、できるだけトイレでの排泄を考えている。 一人ひとりに合った支援の方法を常に考え、取り組んでいる。	自尊心に配慮し、耳元でささやくなど、さりげない支援で、一人ひとりに合った方法で取り組んでいる。トイレの壁に排泄表を貼り、パターンに沿って誘導している。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事内容や水分摂取を促したり、運動の中に腹部マッサージ等を取り入れ、便秘の予防に取り組んでいる。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日の中で2～3人と少人数の入浴にしており、ゆっくりとその人に合った入浴介助をしている。コミュニケーションの場にもなっている。	一人ひとりの希望にあわせ、ゆっくり入浴が楽しめる。また重度の方は、毎日足浴や手浴を行い、清潔保持に努めている。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜はゆっくりと安眠できるようにと思っている。就寝までの時間が大きな影響を及ぼすと考えており、気持ち良く過ごしてもらえるようなかかわりを考えている。眠剤の使用も良く考えた上で使用している。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルや説明書等、介護スタッフにも良く分かるようにしており、服薬においては特に気をつけており、作用、副作用をスタッフ全員に理解してもらっている。臨時の処方等も説明を十分にしている。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることや出来ないことを見極めその人に合った過ごし方の支援をしている。 食事が出来る方や、洗濯物たたみ、花を植えたり座って出来るレクリエーション、会話等を大切にしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	元気の良い利用者には、地域の方や家族と一緒にバスで梅まつりや花見等計画している。又、日常的な買い物にも一緒に行けるよう支援している。	日常の買い物や近所への散歩に出かけている。地域の人たちとのバス旅行や、ふるさと訪問など、外に出かけたいような支援もしている。また、定期的に仏様参りに帰省する利用者の支援もしている。	

事業者名: グループホーム花の里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が出来る方が殆どいないが、今後お金の所持や使うことで生活のメリハリが出来、生き生きと出来ることを期待し支援していく。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話できない方でもスタッフが電話を入れ、ご家族の声を聞けるようにしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先には季節感が出来るように、置物等配慮している。ホールにも利用者と一緒に作ったメインの貼り絵も欠かせない。家のリビングという雰囲気を壊さないよう気をつけている。又、テレビの音や声のトーンにも気をつけている。	共有の空間には、書籍や花・季節の置物・手作りの作品などが飾られ、家のリビングのように居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ちょっとしたテーブルや廊下にもソファを置き、少人数で会話したり、くつろげるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は本人の趣味や意向を聞き、担当スタッフと共に居心地よく過ごせる様工夫している。	居室には、写真やお花・俳句・習字などの作品が飾られ、自分の家を感じさせる工夫をしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの状態に合わせ、落ち着きや機能向上に向けた取り組みをしている。		